京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金五十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休日（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久兒太
印刷人 松久謙一郎
發行所 京城南大門通 京城新報社 電話六大三番 振替口座京城四五六番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二一一番
東京支局 東京市京橋區南佐柄木町七番地

民團公文

京城居留民團告示第四十號（其二）

明治四十四年度當民團歳入出豫算追加及更正ノ件居留民會ノ決議ヲ經左ノ通リ京畿道長官ノ更正認可ヲ得タリ

明治四十四年八月三十一日

京城居留民團民長 古城菅堂

明治四十四年度京城居留民團歳入出追加豫算

歳出經常部

第一欵 役所費
既定豫算額金五萬六千五百十三圓
更正豫算額金五萬六千五百三十七圓

第四欵 教育費
既定豫算額金十一萬四千四百五十四圓
更正豫算額金十二萬八千三百七十八圓

第一項 日出尋常高等小學校費
既定豫算額金一萬九千四百十三圓
更正豫算額金一萬八千九百〇三圓

第二項 南大門尋常高等小學校費
既定豫算額金二萬七千七百三十三圓
更正豫算額金二万六千三百五十九圓

第三項 櫻井尋常小學校費
既定豫算額金一万三千四百三十九圓
更正豫算額金一萬五千二百二十六圓

第四項 龍山尋常高等小學校費
既定豫算額金一万九千九百四十六圓
更正豫算額金一萬八千九百三十一圓

第五項 鐘路尋常高等小學校費
既定豫算額金ナシ
更正豫算額金八千九百五十一圓

第六項 元町尋常小學校費
既定豫算額金ナシ
更正豫算額金六千〇九十九圓

第八項 高等女學校費
既定豫算額金三万千百七十三圓
更正豫算額金三萬千二百〇六圓

第七欵 警備費
既定豫算額金八千百九十四圓
更正豫算額金六千〇六十四圓

第十四欵 豫備費
既定豫算額三萬三千三百三十五圓
更正豫算額金一萬二千八百四十五圓

小計
既定豫算額金三十萬〇五百三十六圓
更正豫算額金二十九万一千八百六十四圓

歳出臨時部

第二欵 居留民團債費
既定豫算額金九千六百十五圓
更正豫算額金一萬四千四百九十四圓

第四欵 教育費
既定豫算金十三万九千四百圓
更正豫算額金十四萬〇五百〇二圓

第一項 小學校費
既定豫算額金十六萬九千四百圓
更正豫算額金十四万〇五百〇二圓

第二目 櫻井尋常小學校增築費
既定豫算額金二萬三千七百八十圓
更正豫算額金二萬三千九百五十一圓

第三目 鐘路尋常高等小學校新築費
既定豫算額金五萬三千百七十二圓
更正豫算額金五萬三千六百五十圓

第四目 元町尋常小學校新築費
既定豫算額金四萬七千八百五十圓
更正豫算額金四萬八千三百十一圓

第九欵 補助金
既定豫算額金ナシ
更正豫算額金九百圓

第一項 補助金
既定豫算額金ナシ
更正豫算額金九百圓

第一目 補助金
既定豫算額金ナシ
更正豫算額金九百圓
私立女子技藝學校及夜學校經費ノ内へ

小計
既定豫算額金十七萬〇八百四十圓
更正豫算額金十七万七千七百二十一圓

合計
既定豫算額金四十七萬一千三百七十六圓
更正豫算額金四十六萬九千五百八十五圓

●冥府の伊藤公へ（八）

恐々縮々庵主人

●閣下は飽迄も女の子に可愛がるゝ宿命を有す現世にあつては紀文大盡も及ばざる艶福を恣にし冥府に入つて忽ちにして縁結びの神となる夫れ八幡太郎は武運長久の神として菅原道眞は文學上達の神として鎮西八郎は天然痘驅除の神として後世の渇仰を受けつゝあり其の神たるに於て異なる所ありとは云へ永世末代に亘り大和民族の冥利を圖る上に於ては即ち一閣下の縁結びの神たる蓋し其の所を得たるもの乎

●閣下夫れと之れとは異なれど予は生前閣下が艶福を恣にせしことに就き度々端なくも想ひ泛べたる一事あり四十二年五月の交と覺ふ本紙本欄に於て翠山生なるものが「冥途よりの通信」と題し亡者星亨より閣下に與へたる一節中閣下の艶福否な漁色を誡めたる文字あり曰く『閣下は例に依り折花攀柳の業に耽り居る事と存候老來の奮闘亦斯かる巷に於て英氣を養ふ敢て妨げなしとせんも出來得べくんば饑慣さるゝが然るべし彼の一代の文豪福地源一郎の如きは生前酒色に耽溺し而も閣下と同じく雛妓を弄びし應法から今は魑魅魍魎の横行する一定の暗所に投せられ日夜うめき聲を發しては苦悶いたし居候道は一例に過ぎざるも要するに冥府の制裁並に閻魔大王は峻嚴なるものにて到底前世の想ひ及ぶところに非ず今は總ての罪障を悔悟し慈悲慈善の佛と成りたる小生決して閣下の爲めに圖つて惡しき事は不申候閣下首肯するや否や」

●冥府の人となりたる閣下は果して冥府に於て福地櫻痴と同じく峻嚴なる閻魔大王の苛責を受けたるや否やされど予を以て言はしむれば少なくとも閻魔大王より賤しまれ目玉を頂戴したる事は事實かと存候併し何れにしても縁結びの神に任せらる閣下の得意や蓋し想ふべきなり呵々

●閣下寺内伯は前述の如く就任早々官制を改正し同時に從來の囑託又は特殊の關係とか一向異体の知れぬ人物を解傭し事務の簡捷と經費の節減とを試みたりされば閣下の時代に於て高額なる俸給を貪り而も碌々爲すなき異体の知れぬ人物ツマリ語を替へて言へば所謂天下の浪人なるものは爰に忽ちにして職を失ひ同時に窮厄の淵に陷りたり昔のヒヤプチヤプは今は施すに由なく寂然として何時の間にか其の影を失ひ今は一人の所謂浪人として認むべきものあるなし之れ畢竟するに寺内伯の性格上之等の浪人を蔑ふの不生産的なるを思ひし結果に外ならざりしや勿論なれどは言へ事實亦之等の浪人を要するの時代に非ざるを自覺したるがためならんか（四日午後一時稿）

●婦人畫報 多數の婦人雜誌中斬に寫眞版に記事に獨り異彩を放つて斬然一頭地を擢んでつゝある婦人畫報九月の卷は出たり口繪の高村畫伯筆の芙蓉は近來の傑作畫報は例によつて寫に其内容の豐富にして印刷鮮明なるのみならず取材巧妙なる一見直ちに現代婦人の活動風俗を知るを得べく、記事また穩健異彩家庭の讀物として好適の文字多く、教訓の中に趣味あり趣味の中に實益を得せしむる等編輯者の用意頗る周到なる確かに現代婦人雜誌界の女王と云ふも過言にあらず、定價廿五錢郵税二錢東京社發行）

外事一束

▲駐獨 佛國大使伯林に歸任し九月一日より摩洛哥問題の交渉再開せられん

▲獨帝 土國駐剳獨大使を以て土帝に高級勲章を贈進し懇篤の親電交換あり

▲英外 務省ルーター通信を通じ獨逸に對する侮辱的記事の英外交官に責任なき旨公表したるも獨墺謝絶せず

▲一朝 獨佛干戈を交へなば獨は確に駐墺大使の責任ある言明を希望す如し

▲英國 有數の軍事專門家の手に成る白國を通過して佛國を攻撃す可しとの論文隔週評論に載る白國大に愕き國境

▲に二 聯隊及機關砲十二門大砲六十門派遣し戰鬪準備に熱中しロイド保險

▲亦著 しく增率し二十九日二歩なりしもの三十日四歩となり表面波瀾洶湧

▲す然 し獨新聞は英國の斷乎たる態度に對抗す可からずとなし暗に讓步を

▲猛烈 し佛國新聞は却て靜冷を呈し國内何等騷擾なし暗中飛躍の遣面白し

▲廣東 革命黨提督李準を狙撃して以來黨類北京に潜伏すの風說盛也民政部

▲狼狽 し爲に電車布設計畫も革命黨の騷擾を恐れ一時差し控への氣味と惡也

▲四川 省民鐵道借款問題に對し不滿を抱き官吏紳董解決の方法を知らずさ

文苑

●歌屑 猩遊齋宿堂主人

○そぼ〳〵と雨ふる日なり淋しらぬ
○そむける人の歌反古を見る
旅にしてむなしく雨を聞く夜かな
老ひたる母の待つといへるを
○さみだれの時間しばしを紅の
柘榴の花に夕日たゞよふ

召使お初

第百四十一回

黑法師

『お返答は什麽とござりまする喃』と國尾は催促するやうに『あなたお聞きなされ方に騙られて、父大病の知らせを聞き、一刻も猶豫なり難く、お築地に手を掛けたまで、不忠の行爲あるではござりませぬ、此まゝに御宥恕ござりませうとも、お家の規模に背くことあるまいと推察、双方に傷を付けで、此まゝ内分に取り鎭めあらせては何うござりまする喃』と優和しき間に力ある詞なりき

澤野はじつと考へぬ

『國尾申す處、理あるやうに思ふ、お察は下々の女なれど、親大切と思ふ心捨てられぬ、些細の罪科さし許すとも、お家の規模に障ることあるまいで穩便の取計ひ、私も望む所ぢやわの』と奧方も同意なり

『花守も花盜人は遁ぬ氣、孝行の二字に免じてお察御宥恕あらせられば、此上ながら御奉公第一、きと忠勤を勵む事と存じます』と國尾は形無き繩に澤野を縛りて、嚴しく手許を占めながら

『親の爲めに罪を犯したお察御制敗とござりまするなりや、さほどの善行ないお君ぞの、一應嚴しいお仕置ともござりませう喃』

『いかさま喃』と澤野は思はず息を繼ぎて、『國尾ぞの仰せ、御有理でござります』

『さらばお察をお差し宥免しでござりまする喃』と國尾は飛び立つ聲なりき

『免し難い罪科なれど、御方様お胸惡へもござりまするで、今日の處は穩便取り計ひ致すでござります』と的に外れたる筒の如く力無く『若様へ御面倒掛けて澄みませぬ』

『それでこそお上慈悲も立ち、私も安堵、赦免と決定致す上、一刻も早う……』と奧方も嬉しげに、『察を宥し遣らぬかの』

『御方お慈悲、又格別でござります』と澤野は口惜しかるべき一言を跡に殘して、面白からず坐を起ちかゝる、奧方は呼ばせて

『序に聞き置く、お君仕置什麽と致すの』

『お察御赦免とござりまする上、お君ぞのにも構ひござりませぬ』

『お察孝行の徳、他人の上にも及ぶおやの』と奧方は痛き口上、『お君よい時に罪を犯いて、免れ難い罪科を免るゝも幸福ぢやの』

澤野は最後の仰せを聞かぬ風して、裙衣の裾荒々しう三の間の廊下へ出てぬ、後は滑き風さつと吹きて、奧方と國尾、快げに顏を見合せぬ

澤野一派の計畫は又齟齬ひぬ、順風に帆を上げたる舟は、序好く港口まで進みたれど、遂に異双に割れたりき

お察は卑なく赦されぬ、赦されてお道の居間に歸りたる時は、主從互に手を取りて嬉し泣きに泣き崩折れぬ、是然しながらお察が忠義孝行を、神々の守護あらせたまへるなり、神々御守護ありて恐しき澤野の手より救いたまへるなり

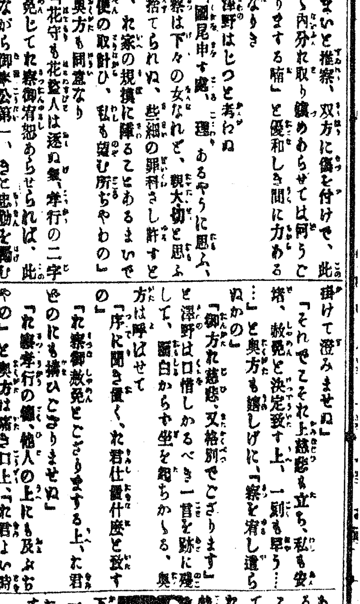
この夜國尾一派の女中達は、打揃ひて、當實姬御前へ御機嫌伺ひに出でぬ

お察はお目通り協ふまじき階婢なれど特別の御詮議に由りて、お三の間お廊下まで進み入るを許されき、これ國尾一派が澤野派に對する示威運動なりき

お察は委細を文にして、父の許へ消息す

國尾一派の得意なるに引きかはて、澤野は一時に息を屏めぬ、されどこの屏息蟄居の間に、又恐しき第三の計畫はめぐらされん

されど此爲めに、お道が中臈に役替ゆとなるべき時機は延されぬ、彼女は中年寄として忠勤を續けたりき



京城新報

中樞院は無視すべきか

昨年併合の大事決せらるゝや、總督府の諸官制發布せられ、朝鮮總督の諮詢機關として、中樞院なるもの設けらる。其中樞院議官には、朝鮮貴族中の有識者或は舊韓國政府時代に要官顯職に在りし者及び民間の德望家儒學者等の網羅せられたる事は、吾人喋々せずとも世の既に知れる所なり。而して我朝鮮總督は、中樞院設置後如何なる事を該院に諮詢せしや、吾人不幸にして未だ中樞院會議の開かれしを耳にせざるなり。這は諮詢すべき程の事項なきに因る乎、否々然らず、吾人の見る所によれば、從來制度の改革せられたるもの、新たに施かれたる法令等其數少しとせず、此等の中には一應中樞院の意見を聽きて後之を施行するの可なるものあり。然るに今日迄何等中樞院に諮詢せし事無きは、之れ當を失せざる耶。或は想ふ爲政者は自巳の萬能を信ずるの餘り、中樞院如きは眼中に置くの必要なしとなす乎。若し爲政者にして如此見解に因るものとせば、是れ制度を私に破壞せむとするものにして、是に由つて生ずる弊害や實に測る可からざるなり。抑も併合當初に於て中樞院を設けし所以のもの、[illegible]半島の民情を[illegible]以て統治の完璧を期せむとするには、鮮人中の各方面を代表せる者を議官とせる中樞院の意見を重んずるを必要とせるが爲なり。由來、屬領土經營の失敗は、民情如何を究めざる統治によつて來るものなるに鑑み、我政府が半島民情究知の必要上、中樞院の如き諮詢機關を設けたるは、蓋し統治の美を望むに於て洵に適當の措置なるは何人と雖も否認する能はざる所なるに、却つて統治當局者が此諮詢機關の機能伸張に努めざるの觀あるは、平素仁政を口にせる統治當局者の意思に就て、吾人頗る疑を抱かざるを得ず。爲政者は現に半島統治の諸制度中に民情に副はざるもののあるを知らずや。殊に過般發布せられたる朝鮮教育令の如き、縦令當局者に於て周密精細なる調査をなして成りしものとは言へ、之を中樞院に諮詢して後發布するは、これ半島の民心を緩和する最良手段ならずとせむや。然かも當局者の注意此に及ばざりしは、吾人の甚だ慊みとするものなるも、既往は之を還すに由なし。唯將來に於て當局者は大に考慮省察す可きなり。古語曰はずや。「離婁の明、公輸子の巧も規矩を以てせざれば方員を成すこと能はず、師曠の聰も六律を以てせざれば五音を正すこと能はず、堯舜の道も仁政を以てせざれば、天下を平治すること能はず」と。眞に至言なり、我總督府賢良の士に富むと雖も、規矩準繩を離れて焉んぞ民をして仁政を謳はしむることを得むや。あゝ仁政なるかな、仁政は即ち民情を斟酌するを以て基となす。之を思はば中樞院も亦無視すべからざる機關なるかな。

東京電報

▲總督と參議官

朝鮮總督伯爵 寺内正毅
兼補陸軍々事參議官

▲陸軍大更迭 四日陸軍大更迭あり七日の官報にて發表さるゝ豫定なるが重もなるもの左の如し

教育總監陸軍大將 大島久直
免本職補軍事參議官
第四師團長陸軍中將 淺田信興
免本職補教育總監

▲遞信省各局長 (以下欄外) 遞信省にては小松通信局長官次官に昇任したる結果其後任に付各局長競爭の睨合を惹起したるが此際本省參事官監理課長田中次郎氏通信局長心得に昇任し隨つて各局長に更迭を行ふことに決定せりと

▲[illegible]相の山公訪問 山本大藏大臣は四日小田原に赴き古稀庵に山縣老公を訪問せり

▲第二回地方長官交迭 新内閣成立後地方長官中辭表を提出したるは高崎大阪、川上和歌山、有田三重、神山群馬、李家石川の諸府縣知事なるが既に高崎、川上、有田の三氏は依願免官となれるが尚若林奈良、松井靜岡、中山栃木の三縣知事も近く辭表を提出する由なれば本月中旬には更に地方長官の大更迭を見るべし

▲新内閣の政綱 新内閣の施政方針に付ては西園寺首相の最も考慮を費したる點なるが大體に於て人心を一新するに在り然して人心を一新するの道は財政計畫に在り首相が殊に目新らしき山本氏を民間より拔きて藏相の椅子に据へたるは財界に於ける諸般の關係に當らしめんとするに在り尚愼重の研究を費さざる可からざるを以て施政の根本的方法を定むるには多少の時日を要す可く彼の前期議會の宿題たる廢稅改築案は延期に内定し原内相が鐵道院總裁兼攝を見たる理由は重要問題の含まり居れるものなりと

▲東宮旭川行啓 東宮殿下は四日午前釧路御發輿旭川に成らせられたり

▲遣英艦消息 遣英艦隊は三日スミツルメ安着の旨公電ありたり

▲三皇孫御還京 伊香保に御避暑中の三皇孫殿下には五日伊香保御出發東京に還啓あらせられたり

▲政友會報告會 政友會は五日協議員會及代議士會を開き西園寺侯の内閣引受顛末の報告演説ありたり

▲國民黨の外交調査 外交問題に關し國民黨政務調査局は永代借地權其他の調査を開始せり

▲濟生會の義金 濟生會の義金は二千五百萬圓に達する見込あり

▲奉天引込線の解決 奉天に於ける引込線問題は二日、日清兩國間に調印を終れり之にて滿州問題は全部解決せり

▲海獸會委員の歸朝 膃肭會議に我委員として列席したる粟野、北原の二氏は四日夜歸京せり

▲華族賞典處分 四十二年發布せられたる華族賞典祿處分に關する法律に依り復錄有權者は夫々行政裁判所に出頭したるが元と該法律は去二十五日議會に於て政友會多數を占めたる請願委員會に於て同法を有利と認め法律案を制定したるものなるが今回政友會内閣成立したるに依り同會關係者は前回の關係上處分の準備に着手せり

雜報

●教育令の實施期 過般發布されたる教育令の實施期は目下拓殖局へ廻付中の附屬法の發布を待ちて確定する筈なるが多分十一月一日より實施する事となるべしと云ふ

●司令官の登廳 新任軍司令官上田中將は六日軍司令部に登廳軍各高等官より新任の祝賀を受け終つて將校同相當官を一堂に會合せしめ一場の訓示を與へ更らに各課の執務狀況を視察すべし

●新舊司令官事務引繼 五日午前大觀亭なる軍司令官々邸に於て新舊司令官の事務引繼を了したり

●大久保大將出發儀式 大久保大將は六日午前九時南大門發東上に付松永第二師團長は五日京城及龍山の陸軍官衙部隊に軍の儀式左の如く心得べき旨命令したり

一、騎兵第一中隊長の指揮する一小隊長は午前八時三十分官邸に至り陸軍禮式の儀仗隊に服務すべし

二、左記部隊は陸軍禮式の堵列部隊をして午前八時三十分南大門驛同停車場途上に左の順序に北面整列すべし 步兵第六十五聯隊大隊長の指揮する二中隊 朝鮮步兵隊の一中隊

三、野砲兵第六中隊は龍山練兵場に於て陸軍禮式により禮砲を發射すべし

四、儀仗其の他に服務せざる諸部隊の上長官以上は五日中に官邸に伺候し出發當日停車場に至り大將の歸京を見送るべし

●大久保大將出發見送者 大久保大將は愈々六日午前九時南大門驛發東上に付軍司令部よりは特に岡本參謀及長谷川一等軍醫を釜山迄見送らしむべしと

●新司令官の歷訪 上田軍司令官は五日午前十一時總督府に山縣政務總監を訪ひ尚折から開會中なる長官會議室に各部長官に面接し何れも新任の挨拶をなし歸邸されたり

●總監の大觀亭訪問 山縣政務總監は今五日昌德宮の午餐會に列したる後二時上田司令官を大觀亭に訪問し司令官の訪問に對する答禮をなしたり

●定例長官會議 五日午前九時より總督府に於て定例長官會議を開き山縣政務總監、倉富司法部、石塚取調局、池田通信局、明石警務總長、宇佐美內務部、菊池農商工部の各部長官小城鐵道局長官代理倭副總裁列席政務の打合せを爲し正午散會したり

●平北道の近況 神谷平北內務部長談…平安北道地方の人士は内地人の[illegible]が如く頑迷固陋に非ず殊に併合後は[illegible]我の歸向するところを知りしため對日本の[illegible]を謳歌せざるはなし而して現今同道に居住する内地人は五千人にして内新義州居住(三千人)を占め他は地方に居住し居れり鴨綠江沿岸の貿易は却々盛にして重もに支那人の手に依つて營まれ日本人は僅少なるが勿論之等の商人は安東縣に多く順次江の上流に沿ふて散在し居れり日本内國通運會社にては鴨綠江の沿岸貿易を開始すべき計劃ある由は周知なるも當時予は不在なりしを以て其の結果を知る能はず又同道の恩賜事業は他道の如く大仕掛けに非ず唯種苗所を各郡に一個所づゝ置き更に養蠶講習所を義州寧邊龍川の三個所に設け其の他普通學校と二個の實業學校を立て之れに補助を與ふるに過ぎず世人も知る如く同道は土着の兩班儒生少なく又之れが兩班儒生は他のソレの如く貧乏ならず何れも恒產あるものなれば生計には毫も差支なし從つて恩賜事業の如きも斷を追ふて徐ろに爲すを得ん乎終りに同道の誇りとすべきものは柞蠶事業にて這は予が昨年柞蠶組合なるものを設けため大に斯業の獎勵を斗りたるが本年は支那人三千人を使役し盛んに飼養に從事せしめたり而して此の產額は多分約十萬圓位に達すべしと云々

●木村鮮銀理事金融談 八月も例年の如く閑散なり、朝鮮は米穀を輸出して日常生活の資料を得るものなるが今年は日本の關稅改正見越輸入の爲早くより内地に移出し殊に此端界期は穀物手薄にて僅に大邱邊に小許の移出を見たるのみ却て群山、鎭南浦邊は臺灣より米を移入したるの形勢ある位なり右樣の有樣にて市場一般に沈睡の姿に陷め居れり、月末に及んで小麥の少し出廻はりたるものあれど殆ど論ずるに足らず、又恩賜公債の買上增加―其金額が一時銀行に預けられたるもの昨今ボツ〳〵引出されて土地に放資されたる模樣なれば市中銀行の預金は減少したるものゝ如し、猶朝鮮銀行は總督府の事業資金にして二百五十萬圓の貸上に應じたれば此等の資金は追々鐵道其他の費用に放下されて自然景氣を引立つに至るべしと云々

●米作豫想高報告 農商工部にては在京中なる寺内總督よりの急電に接し五日午後朝鮮全道に於ける九月一日現在第一回米作豫想高電報報告する處ありたり

●内地人漁村發展 内地漁民の朝鮮沿岸に定住して漁業の發展を營みつゝある所謂漁村は其後漸次發展し昨今の調査によれば漁村の個所は四十六に達し其戶數千五百八十八人口五千五百二十二名なり

●鮮海出漁船の地方別 朝鮮海に出漁する内地の各漁船は最近の調査によれば前年には總計三千九百五十八艘にして長崎の五六七、山口の四四四、廣島の四三五、香川の三五一、熊本の三〇四、福岡二七八を主として其他大分、佐賀、岡山、愛媛等出漁所に於て重なるものなりと云ふ

●蟾津江口海苔製造改良 慶尙南道全羅南道の境に當る蟾津江口の海苔は實に三百年來の古き歷史を有し品質極めて良好にして彼の淺草海苔にも遜色なき程のものなるに製造法の極めて粗雜なるがため未だ日本人向の需要とならずされど一冬期即ち十二月より二月に至る迄の間の製產高は五萬圓に上りたれるを以て之が製造法を改良せむには七萬圓にも上るべき見込なりとて慶尙南道にては同道の恩賜金授產事業の一部として本年十二月より來年二月迄三ヶ月間鮮人の練習生數十名をして日本流の海苔製造法の練習を爲さしめ內地へ移出の道を啓くべしと

●仁川港の石炭輸移入 明治三十八年より同四十三年に至る仁川港の石炭輸移入數量及價格左の如し

年別			
三十八年	日本	三、〇六八	一四四、一四六
	支那	六一	五五三
三十九年	日本	四〇、三三七	三一、六四五
	支那	一二〇	一六〇
四十年	日本	七一、一六一	五四七、九三九
四十一年	日本	八九、六一七	七一三、二九九
四十二年	日本	六七、〇五三	五〇九、三一九
四十三年	日本	六七、〇一五	四三三、四八三

右統計の中三十八年と三十九年は石炭及骸炭の輸移入額にして尚四十年以降の骸炭輸移入額を示せば四十年中三五噸六、四六七圓四十一年二三三噸五五〇圓四十三年五四一噸一〇、三二一圓等なり

●轉學數激增 京城民團の各小學校へ内地若くは其他より轉學し來る兒童は每月三四十人を下らざるが今九月は實に百五十人に上りたりと云ふ右は暑中休暇を利用して內地へ歸省したる官吏等の家族同伴にて渡鮮する者多かりしに依るなるべしと尙女學校中學校への轉學生も非常に多く女學校にては去四日より編入試驗を行ひつゝありと

●釜山の取引所運動 釜山の實業家及び米穀商等は米穀に改善を加へ且つ同地に米穀を集中せしむる等種々なる必要上より先に取引所設立を請願したる處時期未だ到らず不認可の姿となりたるが同地にては何うしても該機關の必要に迫られ居るを以て再び請願する筈にて目下内々諸般の[illegible]つゝある由なり

●全南木浦の人口 去月末調査に係る同地の人口及び戶數を聞くに現在人口は內地人四千百二十五人にして中男二千二百三十三人女一千八百九十二人なり今是れを前月末調査の男二千百九十二人女一千八百二十六人計四千〇十八人なるに比しても百〇七人の增加なり猶ほ內地人戶數は八月末現在一千〇五十八戶にして前月末に比し三十戶の增加なり

●北鮮の食鹽狀況 露國より咸鏡北道慶源鍾城穩城の各郡へ輸入したる食鹽は本年四月より七月迄に四百四十石にして此價格千五百四十圓なる由又慶源地方に於ける同期間の製鹽高は約五百石にして此價格千七百五十圓なる由にて同地方は寒氣酷しきため每年十一月より翌年三月までは製鹽事業は全然不可能なりと云ふ

●昌德宮午餐會 昌德宮李王殿下には五日午前十一時半より山縣政務總監、大久保大將、上田軍司令官、松永師團長、小宮次官、明石司令官、柴參謀長、大西軍醫部長、國分人事局長、小倉主計監、中山大佐、藤波通譯官、十時副官の諸氏三十余名を召され午餐の饗應ありたり

●鮮人と刑事事件 鮮人が刑事々件に對する觀念は極めて幼稚にして例令へば詐欺取財の如きも文書僞造私印盜用罪の附隨するもの甚だ少なく至つて簡單なるものなり又朝鮮には姦夫姦婦にして本夫を殺害するもの割合に多きが這は離婚手續の不完全なるに依るならん而して日鮮人間の刑事問題の割台に少なきは交際薄く言語相通ぜざるものあるが爲ならん又外國人の犯罪と云はば支那人を除いては其數極めて尠く多くは淸人相互間の爭鬪にして之又有りふれたるものに外ならず、鮮人の國事犯は目下殆んどなく只草賊の言を國事に假りて强盜を爲すの類なり之を要するに刑事事件は內地に比して件數比較的に尠きが這は搜査機關の不完全にも由るに非ずや云々(草場刑事課長談片)

●關野博士の渡鮮 豫てより朝鮮に於ける社寺佛閣古建築物等の調査を受け居る關野工學博士は更に殘餘の調査を爲すべく來る十日東京出發渡鮮の途に就く由

●荒井長官の引籠 荒井度支部長官は微恙の爲め五日自邸に引籠靜養中なり

●秋山參事官專任 從來陸軍省參事官兼朝鮮總督府參事官法學博士秋山雅之介氏は今回の東上を機とし總督府參事官專任となり家族同伴の上來る十月下旬歸任すべしと云ふ

●中山書記官 中山書記官は四日當地發東萊溫泉にて二三日靜養來る八日頃歸京すべしと

●颶風襲來警戒 仁川測候所の報告に依れば本月一日臺灣を暴したる颶風は其後南淸に出でしが四日上海附近を經過し北東に進行中なれば六日朝迄には朝鮮中部を通過する形勢あるに付き大に警戒を要すべしと云ふ

●京畿道稻作豫想 京畿道に於ける本年の稻作豫想は百十一萬九千九百十六石なるが昨年の實收高百二十三萬四千石に比し十一萬四千八十四石の減收なり右は植付當時の好況に反し六七月の降雨被害ありし爲約一割の減收を見たる譯なりと

●慶北の農事品評會 慶尙北道義州郡にては農事獎勵のため義興、比安二郡と聯合して十一月一日より三日間米麥、繭、紙等の品評會を開くべしと云ふ

●蔚山地方の農況 慶尙南道蔚山郡を中心として同地方の農況は今後天候に異變なくば上々作の見込にて平年の約二割增收あるべしと云ふ

●葡萄陳列會 朝鮮農會開城支會にては同地方に於ける葡萄の栽培、種類の改良發達に資する爲め來る十五日、十六日の兩日間開城郡廳內に於て葡萄實陳列會を開催する筈なりと

●陳列場設置 慶尙南道金海郡右部面長[illegible]は官有建物たる同郡城南門を借り受け該門の樓上全部に改修工事を施し農水產物、農具參考品陳列場を設置し公衆の觀覽に供せん計畫中なり

公人私人

▲永島巖(平壤控訴院長)四日大興樓へ
▲丹羽圭介(京都陳列所長)同上
▲多田潤松(辯護士)同浦尾旅館
▲稻垣幸吉(東京第一高等學校教授)同巴城ホテルへ
▲三明諒夫(遼東新報記者)同平壤行
▲小川鷹二(醫師)同仁川行
▲岡崎遠光(日韓瓦斯社長)四日歸京

▲京城手形交換高▼

	枚數	金高
九月五日	六五四	二二四、五八九、九一〇

▲治外法權▼

聖上陛下が敬神の念に富ませ給ふことは、天下一般の知るところなるが、過る一日にも御祭服を召させられ、親しく賢所、皇靈殿及び神殿の内陣に於て國の爲はた民の爲に御拜を遂げさせ給ひたりとの事▲二日の二百十日は全國到るところ悉く無事であつた、而して之れ陛下御敬神の致すところ、吾人臣民謹んで御禮を申べきだ▲二百十日及び其前後の無事な爲め米價は段々下向の模樣、但し彼の買占派は今以て强氣を示す、されど天候には買占派も勝ち得ず、所謂米價の調節も遠からず出來よう▲ダガ茲に一考を要するのは舊曆を以てすると今年は七月に閏がある、ソレで指折り數ふれば今日が丁度七月の十四日。之を以て見ると二百十日が過ぎたからとて中々油斷はならぬ▲元田が拓殖局總裁になつた、ために局が省になるだらうとの噂がある、イヤ此噂は元田が就任してから起つたのでなく、實は桂が發任當時に於て已に起つたのだ▲萬國寢臺會社の代表者エベルの談に因るとシベリヤ線の複線工事が完成すると、南大門からパリー迄十日間で行かれることになるとの事、サル說にはパリーの流行は東京よりは京城が先きだ▲過りか去つて中央に歸る、差し其時を得たりか▲三井物產の淺野內地の經濟界を評して曰く、今の日本の經濟は丁度貧乏人が所持の衣類を一枚二枚と剝いで實驗をするやうなものだと▲久しく行惱んで居た例の綿花會社が愈成立することになつたとは眞か。

●身成果音菊代（一）

花柳界の女子達に物言好きる者の夜もの兼ねて抱ゆる犬の鑑と浮世小路の闇を行く按摩導引の笛の音を相方に[illegible]の文句を其儘に下屋の御神燈の下に見立て、斯うした憂い辛い勤を爲る樣な身の上に成るまでには嘸ぞ云はれぬ事情が無くて何うなるもので[illegible]……[illegible]……「定めて悪しなさるでしようが……不圖した事から……」と云ふのが大序で大詰は「[illegible]な身で御座んすから何卒永く[illegible]……何うか御願ひ申します」吉い文句ちやがあるけれど身の上話しは此れが一番通りが好いとある、然るに茲に紹介する主人公は此の道順を逆に取つて行く浮奔娘[illegible]

愛媛縣伊豫郡北山崎村大字尾崎に松岡某の娘にさく代と云ふのがあつた、天性の蓮葉娘相當の家に生れた身に如何しい躾の絶れた事がないけれど才智も優れ學校の成績も上の上で高等小學校卒業後裁縫習科も絡ひ生花、茶の湯、裁縫等一通り習ひ覺え十八歳の秋、

呉軍港で運漕業を營んで居る大嶋傳吉と云ふ從兄に當る者の妻を嫁

だ、然るに彼れは不心得にも良人傳吉を嫌つて翌年の二月實家へ遊びに行きたいと偽つて家出し、實家には歸らず直ちに

横濱へ高飛

して西戸部町の某[illegible]

[illegible]

代り其口車に乘つて奉公する事は何も忘れて口入屋の二階に吉田ハイチャツイて一ヶ月程を夢の如に送つた三月の初め

仁川敷島遊廓の淺岡樓

が妓樓仕の爲め横濱に來たのを[illegible]して戻つて此所に正規の書類を作成し三月中旬横濱を出發して渡鮮の途[illegible]金百五十圓を實家に送つて始めて良人大島の許に居ることを[illegible]渡鮮する旨を申送つた、實家は左樣した家柄ではないので大に驚いたけれども如何ともする事が出來ない其間に仁川に著したさく代は藝[illegible]に身を投じて了つたのであつた。

名を久子と名乘つて浮ばれぬ境遇に身を投じて了つたのであつた。

●オークラクーン

▽區裁判所雇員の卒倒

五日正午十二時四十分頃京城區裁判所會計課に於て執務中なりし雇員大倉某[illegible]まゝウンとも云はず[illegible]列べたる十數名の會[illegible]たらう夫れでは助か[illegible]て叱驚し藥瓶かイヤ[illegible]後の事だれ醫者樣へ[illegible]く電話を持つて來[illegible]マゴ〳〵してる場合を掛けて電話を呼ばクーン、オークラクーン、オークラク[illegible]動、呼び活ける聲のたる同人は遽かに若[illegible]人倒する始末に騒ぎ[illegible]電話を掛けても嚴味[illegible]者は○○醫師殿です[illegible]課ですーエ何所の會[illegible]すから急ぎなすつ[illegible]はれ入來になれば判[illegible]ら急きます〳〵慌て〳〵困りますよ急きます[illegible]ぎの中にも患者の苦[illegible]〳〵内斷き附けたる各[illegible]りと見へ一時に二人[illegible]ちに輕快に向ひたり

●不當な味噌値上

▽四錢のものが五錢

目下當地味噌販賣營業者は物價騰貴に口實目三錢五厘乃至四錢[illegible]目に村一錢宛を引き上げ五錢となしたり四錢の頭に一錢の[illegible]實に二割五分の引上げ[illegible]一割五分の値上げは暴なら[illegible]錢五厘に賣りても猶[illegible]に鮮からざりしもの[illegible]貸したりとて一時に五

●石部金吉沈沒す

▽人は見掛に因らぬ者（一）

群山の米穀商三橋商店員富岡信次郎（二）は群山は愚か仁川の取引先にて誰一人堅人と云はぬ者もなき程なるが去二日仁川の某運送店に托し米數百石を大坂に送り直ちに自身も京城を經て渡事便にて上阪すべく三橋より旅費等を電報にて取寄せたれば上坂せし筈の富岡は何日迄待とも上坂せず問屋よりは米は着荷したれど本人が來らぬより取引出來ぬとの電報に接したる三橋は驚いて富岡の搜索をなしたるも一向見當らず殊に平素眞面目の男なれば女狂ひ杯のあるべき筈なしと云へるを或人が聞付け近頃仁川敷島吾妻樓

の吾妻拍子に現を拔かし

數日流連

して居るは富岡に相違なかるべしと忠告されて今更の如に「ハテ人は見掛けによらぬものぢやなア」

（前項續き）の暴を敢て成したるは實に某々二三大商店の壓迫に依ると聞きては聞棄てならず、彼れ等は以前にありても官舍側より四錢五厘を以て納め居たとて値上相談の當時五錢說を執つて從來の不親切なる營業振りを花客の前に隱蔽すると同時に今度は中合値上を口實として威張つて五錢をせしむべく努力し實現せしめたるなり其の陋操は現在市中の小賣實相場は四錢、四錢五厘、五錢の三種あるに徵すべしと云ふものあり果して事實か（官舍住人投）

●人非人の書置

▽情夫が出來て逃走する

京城新町四十七番戸綾野くみ子は山川十次なる者と四十三年冬内緣を結び現住所にて洋食屋を開き夫婦にて稼ぎ居るくみ子は八月十五日男子を出産せし事とて大に喜び成長を樂しんで働き居たに、に夫十次は四日午前十一時頃外出の儘歸宅せざるより心配して友人宅を捜したるも不在に付家宅內の模樣を見しに金品七十餘圓を持ち出し一通の書面あり文意には他に情婦が出來たから自分は逃走したとあるよりくみ子は氣も狂ん許り驚き夫の無情を恨み其の筋に保護願を提出したり

●仁川署防疫訓示

仁川警察署に於ては五日管內各洞長を召集し虎疫豫防に關する一條の訓示を與へたり其の要項は『目下日本內各地に虎疫猖獗の狀態にて殊に仁川港は船舶の出入上甚だ危險の位置にあるより最も之が防疫に盡さゞる可らざるは言を俟たず防疫の第一着步として

蠅一合十錢に買上げる

事、各戸共に捕蠅器を備付ける事、井土浚渫、水道普及、溝の排水、氷、ラムネ等は絕對に販賣せしめざる事』等を嚴達せり

●呼止められて逃走　太平町一丁目居住福森淸助なる人三日午前三時頃南大門を距る約五六丁の東を散步中怪しの鮮人風呂敷包を背負ひ南大門外に向け行くより不審に思ひ何處に行くかと問ひたるに携帶品を遺棄し逃走したりと携帶品は古綿數貫目女持ち洋傘一本蛇の目傘二本に付心當りの被害者は南部署司法係りに申出づ可しと

●經濟學上の新發見　新潟縣人久保田濟治は窃盜犯にて京城區裁判所に於て懲役四月に處せらる因に同人は早稻田大學文科並に經濟科出身にして東京每日新聞釜山日報等の經濟部記者に從事したる者なりと

●とを失して實　南山町二丁目の出火の際火元なりし金光倉（三〇）は失火犯として笞刑二十に處せらる

▲殘暑の酷しさは然ること乍ら何と申しても秋に候ポプラの葉のホロ〳〵とこぼれて脫藥した蒋羽織の下にキリキリスのコロ〳〵と鳴く朝や〻冷て押しだ漬の茄子の色褪せたり山を見ずも野を見ずも秋は溫突の內にも見るを得べく人肌の溫さも嬉しく相成候▲消月樓の若松は子供の時から石を弄する事を無上の樂みと致居り此頃にては碁石とさへ見れば白でも黑でも見當り次第一々懷へ笛の抽斗に仕舞込み時々引出しては獨ニコ〳〵、とは何の事だか▲鶴の丸樂ヒ客を大切にする事此上なしだが又無心を云ふ事も此上なしだよ▲同樓の高千穗は大和町〇〇隊の好さんが田舍で病死したので力を落し毎日れ國向に餘念なしとは佛も嘸喜んで居る事なるべし南無妙法蓮華經▲淸進樓の二枚米八は或る相場師の君に御贔負に成つて賴るの強氣筋▲同樓の桃花は花が好きで花と云つたら夢中なりと但し八々に非ず▲淸月の春人は好物が胡瓜いいあたりめに氷水にて命樣に懷中しることにあたりめに氷水…のある人、嫌なものは入院に心太▲皆春樓の式部は近々年開きの由なるが此の妓の仕送りにて生活せるものなるか妓父を失ひ兄は啞にて妹が三人今は此の妓の仕送りにて生活せるものなるか再勤はさせ度くないもので同情する方澤山なり▲同樓の花絹は良人となる人の財產調べ中なりしが何なつたかしら

●中檢藝妓の腕比べ　一寸見てもまさかこれ〳〵と頂戴よ本氣になりやアねら少々位眼尻に年は老眼頭に縮緬鉄がよつたつて腕に年は老らせませんよ況んやですよコー踏張つて腰を落して引つ組めばエーヘツれ氣のガモチーの大氣焰大勝利だカツカツカツ、ツ壽だが花月の勝利だ大勝利裙を第一に二十番迄を記し參らすれば二番が政子（井）光奴、時松（松）今奴（淸）蝶々（井）糸羅丸（松）靜江、れ染、君子、繁春、れも茶（柳）玉千代（淸）勝子（松）富美子（井）小遊磨（花）政菊（淸）若龍（同）小高（花）三太（淸）

●仁川藝妓の枕比べ　仁川券番八月中の成績による九月中の席順十名までを記せば野暮に左の如し
久子（一富士）牛駒（八阪）一若（一富士）萬歲（淺岡）福太郎（鰈）桃太郎（八坂）榮丸（榮亭）政尾（一富士）桝子（淺岡）丸八（榮亭）

●演藝だより

▲歌舞伎座●●● 活動大寫眞及びキチオラマ並に俄氣踊等にて每夜の大入▲壽座●● 片岡鶴之助の浪花節芝居にて演題は井筒政談野狐三次昨日の續き▲龍山座●● 桃中軒雲柳一行の浪花節

▲新年島の第七卷第二十一號は四日の夜配達して來た度々事務所を取り變へる同誌の事だから今月あたりは何處へ引き越したかしらと目を皿の樣にして全卷を通讀して驗たが見當らぬ▲其樣な筈がある筈のものでないと再讀三讀して發行所を探したが發行所どころか發行人編輯人印刷人等の氏名も記載して無い▲新聞紙に依つて出版されたものだから其筋への屆出は濟んで居るに相違ない而して其分には記載して有つたかも知らぬが僕の所に配布された分には明かに洩れて居る發行人も編輯人も居ない理由は無からう▲新聞規則違反其樣な事は何でも宜いが僕の如く用のある者は全く困つて終うかぁなア（集金小僧）

▲西小門外獨立門通り十字街路に巡査派出所が新設されたが堂々たるもので優に一家の體を備へて居る詰合の方は心持の好い事であらう▲と思ふと同時に僕は斯う思つた大道の角にアー云ふ大きなものを建て〻邪魔にならぬ程の京城現在の交通では迚も迚もであると（風顚子）▲時間を嚴守するの必要なることは今更喋々を要せざるが時刻の一定は頗る肝要である然るに泥峴街各家の時計を見るに悉く違つて居て甚だ

しきは一時間位相違して居るのがある此れは所に依つて正午砲が聞われが爲めであらうから午砲臺を南陽公園に移されんことを希望する（一お衣）▲東部七八丁目の有志者に告ぐ繁榮策に有物市場を開業しては如何適所は京城座附近として（人氣男）▲バリー洗粉を使用する位なら火鉢の灰を使用するが宜しい（使用人）▲旭町一丁目二百二十八番戸の有川追氏實母死亡に付谷口啟正の齋主で神葬祭式典を擧行せられたが實に奥床しい感を催した（實罪生）▲花月の入口に太い電柱が樹つたれまけに大きな仁丹の廣告が貼つてある振つたものだ序に其左側に毒滅の廣告を樹て左右の塀に徽毒淋病の藥や乃至いゝいもりの黑燒長命丸など數々の看板を掲げてれ出入の紳士方に賣りつけては（九三生）▲朝顏拜見を願ひたる所早速御招待狀を受けたるも生憎風邪にて臥蓐罷在其御好意に背きたるを深く御詫申上候各位（社內天異）▲新町藝妓名詠込都々逸を一つ▲京城樓月子「逢ふて月てう淺くはあれど深く見らるゝ花のかげ」▲第一樓支店まつ江「每夜引けをはまつ江の君は教師上りだ氣の毒」▲第一樓各妓「せいはいいいは小式部すがたは吉野色は白たね氣はしづ江」（民坊）

有効無害保證赤井筒藥
登錄商標
廣 六神丸 修

定價

一粒入	金十錢	十四粒入	金一圓
二粒入	金十八錢	二十粒入	金一圓四十錢
三粒入	金廿五錢	五十粒入	金三圓
五粒入	金四十錢	百粒入	金五圓
十粒入	金七十五錢		

郵稅一包に付金三錢

特効主目
●肺病●胃病●風邪●腫物(即ち疔瘡●乳蛾●乳癌●毒●癰疽等)
◎痢病●下痢●心臟
●霍亂●小兒驚風等に最も適當す

◎肺病全快禮狀(大略)
拜啓過日當村神田増直(十六才の男子)肺病にて永らく困難罷在り候に付御藥御送附相願ひ候處御送り被下候有仰の通り用ひ候處今日に至り全快致し從前の通り職業に身力を盡すも何の差支も無之場合に相成候間御禮申上候早々不備
明治四十四年四月十八日
甲斐國中巨摩郡大井村古市場 不動寺內 松田深敏
龜田利三郎殿

●注意 六神丸と稱する藥品なれば皆悉く効能ありと思ふは大なる誤り也、近來諸方に幾多の自稱類似藥生じたるを以て本舖賣藥の眞品を購求せんとする人々は、赤井筒の登錄商標及龜田利三郎の文字に御注意の上有効無害の精品を撰ばれん事を熱望す
京都五條室町西入(電話八二七番)
正本家 龜田利三郎
京城南大門通三丁目
代理店 新井藥房
振替口座京城十六番 電話一〇六八番九〇四番

人は半生寐て暮す
それなら、
蒲團の必要は申す迄もなく
蚊張又御同樣で御座います
時節柄かや蚊帳なら唐川への御評判を益々發揮して確實に勉強致します
呉服類は 關東織物 京坂流行品取揃かや綿に劣らぬ樣奮勵致します故是非共御來店を願ます
地方よりの御注文に限り此廣告御送附の御方樣には聊か景物を御添へ致します
京城明治町一丁目(電話二六一番)
△唐川呉服店

回春 目藥
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房
電話九百四番千六十八番 振替口座一京城十六番

▲月經をつうじ 子宮病を全治す
●月經閉止三四ヶ月の滯りを通じ其他月經不順より起る子宮病血の道、頭痛、食物進まず、氣分勝れず、逆上頭く等の病を根治し、血のめぐりを能くす。

月經不順 最良新藥
二十世紀之新劑
宮月丸

定價 一日入錢半 一週五十錢 週分廿五錢 二週分壹圓 三週分壹圓四十錢
常に月經異動ある人持藥とせば補血の下し子宮病に罹る迯び更になき良劑也
本舖 大阪心齋橋二丁目 丹平商會本店
支舖 東京日本橋區通町 丹平商會支店
▲賣捌は東京市內其他各藥店に取次す

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房
電話九〇四番一〇六八番 振替口座 京城十六番

淺田飴
肺病より 起るたんせき 咽喉をいためし 聲を發せしむ 病後のよわり 貧血性諸症
本舖 東京 堀內
良藥にして口に甘し

代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房
電話九百四番千六十八番 振替口座 京城十六番

度支部釀造試驗所釀造
芳香 佳絶
杏酒

本店 京城本町三丁目(電話二五〇番)
第一支店 同 本町一丁目(電話一三五四番)
第二支店 同 本町五丁目(電話三二二番)
大邱支店 大邱元町一丁目(電話三二〇番)
木浦支店 木浦銀座通

發賣元 海市商會

資本金五百萬圓 本店東京市日本橋區呉服町
東京建物株式會社派出所
一土地建物抵當貸附
一月賦償却建物建築
京城旭町二丁目 電話一六八一番

釀造の進歩
千葉縣野田町 茂木七郎右衛門醸

最上醤油 (キハク印)

東京時事新報記者が東京野田間輕便鐵道開通式に參列し野田醤油醸造の實況を視察し其報告を野田町の發展と題して本年五月十四日より同廿日迄の紙上に連載したる其中に曰く人口一萬足らずの土地に醤油醸造家十一軒にし職工四千人の多數を有し最近一年間の産額三十二三萬石其中産額の最も大なるは茂木七郎右衛門氏の木白(キハク)にして之に次ぐは茂木佐平治の(龜甲萬)以下入軒(各氏名記)の順序なりと云ふと記し尚醪(モロミ)の製法を研究し記して曰く五十石以上六十五石を容るゝ高さ六尺乃至八尺に餘る大桶幾千本の醪を毎日三四回攪拌するに人力にては到底隅々まで行渡らざる處あるを以て木白にては空氣攪拌機と云ふ空氣の力にて桶を攪拌するの装置を爲し頗る良好なるを以て醸家何れも皆此例に倣はんとて目下準備中なりと聞くと蓋し日本全國の模範醤油は野田にして野田醤油の模範は木白なること少しく野田町の事情に通ずるものゝ一般の定評たるを確保し得べし弊店に合販入無代進呈の準備あり御試味の上品位の高批を得は幸甚

京城明治町一丁目
京城特約店 牧野豊田商店(電話二百五十三番)

蒲燒鰻丼
やながわ
大勉強仕候
本町一丁目 天金 電話五九八番

銀行一般の業務精々御便利に取扱申候
京城黄金町(銅峴)
株式會社 十八銀行支店
電話四二〇番 五八〇番
○本店 長崎市
○日本、朝鮮の各樞要地並に關東州、清國安東縣、大連に支店、出張所又は爲替取引先有之候
○株式會社長崎貯蓄銀行京城代理店として貯蓄預金取扱申候
◎貯蓄預金
○元金百圓に付日歩一錢二厘
○一口一錢以上何程にても御預り申候
貯蓄預金受拂共精々御便利に取扱申候

名譽銀牌受領
キリンビール

土地建物鑛山株券賣買
小林藤商店
一擔保及確實なる價格に對し低歩貸金す
一漢江上流に在る赤松長五六間のもの二十萬本余賣物あり
一市內適當の場所にて印刷業老舗機械附屬品全部讓り物あり
一京釜線太田驛附近の田畓(三四里以內の處)
一京仁線以西の田畓右買たし賣物あらば至急申込まれたし
最良好の金銀銅鐵明礬山石綿山賣物あり
京城明治町三丁目 電話六五五番

手輕產兒院
入院料一日五十錢但し手傳料包含す患者の希望に因り自炊するものには一室を貸與す患者の遠近に不拘御招きに可應候
主任 産婆 三池鶴代
西部新橋通り元明禮宮跡(電話一四八九)

內科 小兒科 外科 梅毒淋病 入院隨意
院長 陸軍軍醫正 高井貞治
京城蕃町三丁目 高井醫院 電話(二二六)

御料理 金山寺味噌
製造發賣元 京城南大門通 遠藤商店 電話九八二番

最上醤油
釀造元 仁川萬石町 高杉醤油釀造所 電話七六五番

緩和下劑
カスカラ糖衣錠
東京三共合資會社朝鮮總代理店
仁川本町 竹田津三平

營業科目
東京竹內製金庫
東京堀井謄寫版
卿筒並ニ消火器
手提金匣
器械的文房具
複寫紙及複寫簿
弊店ハ前記各品專門的ニ營業仕來候故ニ價格ハ概子內地ト同樣ニシ物品ハ潤澤ニ取揃ヘ居候間御注文希上候
營業品目錄ハ御申越次第送呈仕候
京城本町一丁目 熊平支店
電話六二四番 振替貯金韓國二二番
東京竹內製

直輸入新荷着
英國製
COMMANDER BIRMINGHAM ENGLAND
實用車 コンマンダー號
歐米各國自轉車直輸入商
京城本町二丁目 織居商店自轉車部
電話四八〇番(電略オ)

商標 光鳳
釀造元 仁川宮町三丁目 深見勝三郎
電話二四八番 電信略號フ

鑛山用 道具用 職工用
英國セフヒールド市シーボムアンドデイキンスタル製鋼會社特約品
地球鷲印八角鋼 同 角磨鋼 同 鑢各種
右は朝鮮一手販賣罷在候處清鮮地石材穿鑿具製作用として最も適當の爲め至極好評を博し價格亦內地輸入品より格外廉價に御座候間何卒一度御試用奉希上候
京城本町五丁目
和洋金物商 釘本藤次郎本店
(電話四五番)電信略號「ク」振替貯金口座京城二五六番

義齒術一般
三十日間 二割引
金齒一本一圓五十錢より八圓迄
銀齒一本三十錢より八十錢迄
義齒一本五十錢より一圓五十錢迄
セメンツギ齒一本三十錢より五十錢迄
仁川宮町一丁目(三福すし向側) 森冲院

清酒 正宗 正則 釀造元
酒 小賣壹升に付三十錢 卸賣は特別割引可仕候
清酒 味淋燒酎 釀造元 並に日用食料品雜貨類
京城蕃町三丁目 中井酒造場販賣部 電話百七十七番
電話にて御注文の際は一升以上は店員をして逸速致さすべく候

開店披露
支那御料理 會席御料理 並に仕出し
室內及器具等は清潔で料理は新鮮美味にして價格は低廉なれば一度御試し旁々御來店の程願上ます
仁川宮町二丁目(入阪寫眞館前) 築港亭

弦齋流割烹
す津祢
南山町一丁目 電千五百二番

尾州半田 中埜本家 清酢
特約販賣 仁川京城 高雄支店

本場精撰 茶
右銘茶各種新物續々入荷に付御小賣にても大勉強仕候間多少に不拘御用命願上候
仁川本町四丁目(府廳通)
田中芳春園 電話四五〇番 振替京城五〇二番

神易人事一般
仁川 翔米 必勝活斷
京城旭町一 高千穗の下 山の內

芙江 公州間定期出帆
芙江發毎日後一時四十分公州着後六時
公州發毎日前七時芙江着後四時半
御客樣の娛樂用として新聞雜誌碁將棋盤等の備付あり
京釜芙江驛前 中條運送芙江支店

九月中 瀛船出帆廣告
三宅丸 甑申行 九月 日前十一時
天草丸 海州行 九月六日前一時
武藏丸 審島行 九月八日前八時
安來丸 海州行 九月八日前二時
成歡丸 大湖芝行 九月六日前十一時
合資會社 仁川本町一丁目 秋田商會船舶部 電話一七三七五〇番